

冬期に流行する牛コロナウイルス病に気をつけましょう

冬期を迎えると流行が始まる牛コロナウイルス病は、長年酪農若しくは肉用牛経営をされてきた皆さんの中には、経験されてきている方も多いのではないのでしょうか。当所管内においても、毎年散見されている疾病です。

ウイルスの病気は、一旦感染すると効果的な治療はなく、対症療法で症状を和らげるか、症状が治まるのを待つしかありません。重症化させないためにも、改めて牛コロナウイルス病の特徴と対策について振り返り、その対策に努めましょう。

- 【原因】 牛コロナウイルス
- 【症状】 突然の水様性の下痢→重症化すると粘液便や血便
乳量低下、発熱、時には鼻汁漏出等の呼吸器症状
- 【特徴】 寒冷期に多発流行、特に急激な気温の低下で発生しやすい
下痢便を介して感染が広がるため、牛群内で急速にまん延
成牛だけでなく子牛にも発生し、重症化すれば死に至る
- 【対策】 1.病気を持ち込まない衛生対策
○踏込消毒槽の活用
○牛舎内専用の長靴使用（業者・獣医師等も含む）
○預託帰りや導入牛は一旦隔離して健康確認
○牛舎の清掃・舎内消毒の実施
- 2.流行期前のワクチン接種
- 3.適切な飼養管理によるストレス軽減
○室内温度に配慮しつつ十分な換気の実施
○密飼いの防止
○清潔な環境を保ち、新鮮な水（できれば加温）を給与
○導入時の隔離飼育・ビタミン剤の投与等によるケア
○早期発見及び対症療法

神奈川県県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3658

電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124

東部出張所

〒226-0015 横浜市緑区三保町2076

電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432

